

岐阜県博物館・岐阜大学  
連携企画移動展



みよし まなぶ

# 天然記念物の祖 三好 学

会 期 平成30年10月10日(水)～11月12日(月)

会 場 **岐阜大学図書館** 2階エントランスホール  
(岐阜市柳戸1-1)

時 間 平日9:00～21:30 土曜日10:00～18:00  
(10月25日、26日は9:00～17:00)

閉館日 毎週日曜日及び祝日

主 催 岐阜県博物館

共 催 岐阜大学学術アーカイブ整備実施部会

入館無料

# 岐阜の、日本の‘景観’をまもる

日本の近代化が急速に進められた明治時代、自然景観や名木、巨樹などの貴重な天然物が破壊され切り倒されるのを危惧し、法律をもって保護すべきであると説いた人物がいました。その人物が岐阜県が誇る偉人、三好学(1862～1939)です。近代日本の植物学のパイオニアである彼は植物生理学を我が国に導入し、その発展に貢献しました。さらに、植物生態学をはじめ桜に関する研究報告など数多く残しています。



三好学は、全国各地で  
天然記念物指定に向けて  
調査を行った  
日本で初めて指定されたのは  
岐阜県中津川市の  
「坂本のハナノキ自生地」  
である

国・天然記念物 坂本のハナノキ自生地  
提供 林千洋氏

三好学は、桜を国花  
として捉え  
図鑑や書籍を  
残したことなどから  
「桜の博士」とよばれる

国・天然記念物 根尾谷淡墨ザクラ  
提供 本巣市教育委員会



本移動展は、明治150年を記念し県博物館で6月から開催された企画展に続くものです。

【三好学の生涯を知ることのできる展示資料紹介】

- ・岩村がルーツであることを示す資料
- ・小学校長を経て東大に進学するなど、学生時代から才能を発揮した彼の生涯を追う資料
- ・日本で初めて天然記念による保護を訴えた「東洋學藝雑誌」の掲載ページ
- ・彼が岐阜県下の旅行道程を記録した「濃飛両国地理明細新全図」(川瀬善一編 1868印刷)